

「新しい東北」東北3県・石川県合同セミナーに登壇しました（2025/12/20）

テーマ：震災の教訓、復興、官民連携

会場：石川県地場産業振興センター

URL：<https://www.reconstruction.go.jp/topics/cat-11/cat-39/cat-177/20131024120236/R7seminar.html>

2025 年 12 月 20 日（土）、石川県地場産業振興センターにおいて、復興庁主催の「新しい東北」官民連携推進協議会 東北 3 県・石川県合同セミナー「震災の教訓を共有し、復興の知恵を次世代へ」が開催されました。

本セミナーの第 1 部では、当研究所の姥浦道生教授（空間デザイン戦略研究分野）が専門家として登壇しました。姥浦教授は「官民連携による復興まちづくり事業」をテーマに、石巻市等での実践例を紹介しました。都市計画の視点から、インフラ整備とまちづくりの調整、そして初期段階からの「対話の場」が信頼構築に果たした役割について、具体的な知見を報告しました。

続く第 2 部では、福島大学地域未来デザインセンターの藤室玲治特任准教授がファシリテーターを務め、次世代を担う若者たちによる対話セッションが行われました。当研究所からは、菅原研究室（津波工学研究分野）で津波堆積物の研究を行っている藤本悠吾氏（理学研究科修士課程 1 年）が参加しました。藤本氏は、自身の専門領域の視点を持ちつつ、以前より復興のあり方について強い関心を抱いており、東北での教訓がいかに他地域の未来に活かされるべきか、一学生の視点から熱心に議論を見守り、他大学の学生たちと交流を深めました。

また、本セッションには、日頃から防災教育に力を入れている宮城県多賀城高等学校の生徒たちも参加しました。多賀城高校の生徒たちは大学生と共に、能登と東北の未来について等身大の対話を繰り広げ、震災の教訓をどのように次世代へ語り継いでいくべきか、真剣な眼差しで取り組んでいました。

専門家による経験に裏打ちされた知見の提示（第 1 部）から、学生たちによる未来志向の対話（第 2 部）へと繋がる構成により、多世代が共に復興の知恵を共有する極めて有意義な機会となりました。

当研究所は、今後も東日本大震災の教訓を風化させないように、能登地域をはじめとする各地の復興支援、そして高校生・大学生を含む次世代の担い手の育成を通じて、よりレジリエントな社会の構築に貢献してまいります。



講演する姥浦教授



参加者一同での記念撮影